

原 著

硫 黄 泉 の 研 究

(V) 上山田温泉飲用の便通に及ぼす影響

昭和29年12月13日 受付

信大医学部大島内科(指導 大島教授)

中 島 富 彦

Studies on Sulfur Springs

(V) Effect of the Internal Use of Thermal Waters of Kamiyamada on the Evacuation of Bowels

Tomihiko NAKAJIMA

Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Shinshu University

(Director: Prof. Y. Oshima)

It is widely known that the drinking of sulfur waters has beneficial effect on the chronic constipation. The cause of the action on bowel movement is attributed to the central and peripheral action of hydrogen sulfide which is contained in the thermal waters. Two hundred ml of thermal waters of Kamiyamada, simple sulfur spring, were daily administered to each of ten cases of constipation. Patients were divided into three groups: the first group of three cases with chronic and severe constipation, the second group of three cases with moderate constipation and the third group of four cases with irregular evacuation of the bowels. The results were summarized as follows: in the first group the drinking of thermal waters had somewhat beneficial effect. In the second and third groups the stool became normal and was evacuated regularly once a day. It is concluded, therefore, that the drinking of thermal waters of Kamiyamada is effective on the mild case of constipation and regulates the abnormal evacuation of the bowels.

緒 言

慢性便秘が硫黄泉飲用の好適応である事は周知の事実である。即ち三沢^①、大島^②等に依ると温泉中に含有されている硫化水素は腸管内で大部分アルカリと化合し硫化アルカリとなり、これは刺激性が強く硫化水素と共に腸の蠕動運動を亢進させて排便を促す作用があるといふ、本学薬理学教室軍司^③の研究によれば硫化水素は中枢性に腸管運動を促進すると。

著者は今回単純硫黄泉上山田温泉水を便秘を主訴とする患者に用い、些か知見を得たので報告する。

実 験 方 法

使用泉水は、国立長野病院内湯(pH 8.8, 泉温 37.8°C, 滴定硫黄 5.0mg/l) 患者をグループに分ち (i) 便秘 3日以上者 3例, (ii) 便通隔日乃至毎日でも非常に硬いもの 3例, (iii) 便通略々毎日あるも時に下痢, 時秘便に傾く者 4例。飲泉は大体朝食前及び夕食前1時間の2回, 飲用量は大体1回100ccとし其の度毎に新鮮泉水を採取投与。

実 験 成 績

第一グループ

(I) 倉○主 ♂ 40才

右肺浸潤(経症) 便通3~4日, 時に5日に1度, 胃痛, 腹痛なく腹部圧痛なし。本患者は常習便秘と考えられ, 泉水を朝夕各100cc宛2回連日飲用。飲用当初腹部膨満感, 嘔気, 不快感等の副作用なし, 約1ヶ月目より便通2~3日置きとなり患者は自覚的に稍々具合が良いと訴える程度。

(II) 竹○久○ ♂ 56才

高血圧症(中等度) 最高血圧150~160, 腹部異常所見なく痔疾なし, 20~30年来の便秘, 4~5日に1度, 泉水を朝, 昼, 晩各100cc宛1日300cc投与。約20日目より便秘稍々緩和, 2~3日に1度, 飲用に依る副作用はなし。血圧は稍々低下(2ヶ月目最高血圧145~150)

(III) 山○千○ ♀ 25才

常習便秘及び高度の面皰, 4~5年来の便秘及び2~3年来の面皰に悩む。腹部所見, 左下腹部に抵抗あり糞塊か。便通は4~5日に1度, 泉水を朝晩100cc宛10日間以後150cc宛2ヶ月半連用するも殆んど変りなし。不快感其の他の副作用なし。

第二グループ

(I) 倉○武○ ♂ 40才

両側肺結核(中等症)兼裂痔, 本年3月頃より便秘勝ち(特に薬剤の影響考えられず)其の為謂ゆる切痔現われ排便時出血多く便通1日1回なるも硬便。腹部異常所見なく, 局所々見として肛門部数個の裂創及び1ヶ所小潰瘍を認む。直腸鏡検査では異常なし, 本年6月中旬より飲泉開始朝晩2回計200cc飲用するも夜間上腹部膨満感ある為6月下旬より朝1回200cc飲用に変更。開始後約10日目より便軟かくなり排便時出血も20日目位より全く消失, 排便回数は1日1回。現在も連用中。10月20日現在肛門部所見全く正常となり患者は喜んで居る。

(II) 正○三○ ♂ 53才

肺結核(中等症)兼軽度の裂痔。本年4月頃より便秘勝ち。1~2日に1度程度其の為時々痔出血出現。腹部異常なく肛門部直腸最下部1個の稍々長い裂創を認む。本年6月上旬より毎朝100~200cc飲泉開始約4日目より便軟かく太く良く出る様になる。約10日目より出血も全く消失現在連用中。10月20日現在局所々見全く正常。

(III) 水○繁○ ♂ 39才

肺結核症(軽症)昭和28年3月頃より約7ヶ月間腹膜炎に罹患。以後便秘勝ちとなり1~2日に1度。患者は毎食後の果実摂取により便通を整える様苦心した。左季肋下部及びS字上部抵抗あり軽度の圧痛存在。本年9月上旬より朝夕100cc宛飲泉, 然し1日目位より便下痢気味となる故に1回70cc1日140ccに減量4~5日目より便通正常となりガス排出も良好患者は非常に気分がよいと訴えて居る。尙最初4~5日間は上腹部膨満感及び軽度の嘔気あるも以後全く消失現在連用中。

第三グループ

(I) 西○房○ ♀ 33才

軽症肺結核, 本年4月上旬より便通不規則となり下痢(1日1回稍々酢味あり)或は軟便となる。6月上旬より朝夕宛飲泉開始約1ヶ月目より普通便となり以後全く下痢なし。

(II) 鹿○正○ ♀ 38才

肺門炎兼左肋膜炎後遺症, 本年3月中旬より便通不規則となり(I)と全く同様の訴えあり腹痛なし, 6月中旬より朝夕各々100cc宛飲泉開始。開始後1週間位は上腹部膨満感, 軽度の不快感を訴う。約3週間目より便性状良好となり腹部グル音も完全に消失。

(II) 堀 ○雄 ♂ 33才

肺結核(中等症)本年4月上旬より便通不規則となり便秘(1~2日)又は下痢(1日1回)を訴う。6月上旬より朝夕100cc宛飲泉開始。始め4~5日間は

腹部膨満感存在するも以後全く消失, 約2週間目より便通規則正しく正常便となる。

(VI) 小○ケ○ ♀ 27才

軽症肺結核。本年5月上旬より便通下痢に傾き1日1~2回(2回の場合1回は軟便2回目は必ず下痢便秘稍々酢味を有す)頑固な下痢が約4ヶ月間続き其の為体重減少(49K→44K)止瀉剤あまり効なし。腹部左下腹部稍々圧痛及び時に軽度のグル音を認む。9月上旬より朝晩50cc宛1週間連用特に異常なく以後1回100cc宛1日200ccに増量開始当初は不快感及び軽度の膨満感存在するも2~3日にて消失。飲泉1ヶ月目より便通正常となり以後殆んど下痢なし, 体重も増加を見, 11月2日46.5kg, 12月2日48kg。

尙上記症例中便通変化に影響あると思われる様な投与薬剤は特になし。

考 按

今日硫酸泉が下剤として広く利用されて居る事は前にも述べた通りであるが其の硫化水素の含有度並に副成分の如何により適応症も異なるものと考えられる。即ち当上山田温泉の如く硫化水素含有量の少ない単純温泉は其の作用も比較的緩和であろうと想像せられる。然しながら飲用に際して泉温の不感温度にあることは, 温泉刺激を緩和ならしめるに役立つ, 又硫酸泉特有の謂ゆる「腐卵の臭」に依る嘔気, 不快感, 眩暈感又は酩酊感等の副作用が殆んど見られぬ利点もある。上記の症例の第一グループの如き頑固な便秘に際しては著明な瀉下作用としての効果は殆んど認められなかつた。然しながら第二グループの如き硬便乃至は便秘に傾く如き型には非常に良好な結果が得られた。更に第三グループの如き寧ろ下痢に傾く型に対してさえも非常に好結果を得られた事は興味ある事と思考される。

結 論

著者は今回, 単純硫酸泉上山田温泉水を計10例の慢性便秘患者に飲用せしめ, 次の成績を得た。第一群(頑固な3日以上便秘)に対しては著明な瀉下作用を認め得なかつた。第二群(便秘勝ち, 又は1日1回の硬便)は規則正しい正常便排出を見るに至つた。第三群(時に下痢時に便秘に傾く型)に於ても第二群同様便通の正常化を認めた。

文 献

- ①三沢敬義: 温泉療法 214頁 南山堂 昭和22年。
- ②大島良雄: 温泉療法 47頁 医学書院 昭和26年。
- ③軍司良一: 信州医誌, 4, 1: 91, 1955